

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校		平成6年12月8日	田中 良		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地 NSG-スクエア 2F (電話) 025-225-1661																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	池田 祥護		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	サウンドクリエイター科 (レコーディングエンジニアコース)			平成31年文部科学省 告示第三号	-																					
学科の目的	サウンドクリエイター科の学科目的・優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高い学生を音楽業界へ輩出する。																										
認定年月日	令和3年3月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1807時間	398時間	-	1409時間	-	-																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
20人	0人	0人	1人	8人	9人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(可)、E(不可)の6段階で評価する																						
長期休み	■夏季:8月2日～8月26日 ■冬季:12月24日～1月6日 ■学年末:3月14日～4月4日			卒業・進級条件	【進級・卒業条件】 ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 ■補講授業、課題提出			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ■学園祭実行委員会、吹奏楽団への参加、母校部活サポーター ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 音楽プロダクション等音楽業界 他 ■就職指導内容 担任・就職相談室による個別面談、就職強化週の実施、校内音楽系企業説明会の実施、面接指導 ■卒業生数: 4人 ■就職希望者数: 3人 ■就職者数: 3人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 75% ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 元年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算処理技能認定試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス著作権検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	サウンドレコーディング技術認定試験	③	4人	4人	Excel表計算処理技能認定試験	③	4人	4人	ビジネス著作権検定	③	4人	4人	コミュニケーション検定	③	3人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
サウンドレコーディング技術認定試験	③	4人	4人																								
Excel表計算処理技能認定試験	③	4人	4人																								
ビジネス著作権検定	③	4人	4人																								
コミュニケーション検定	③	3人	3人																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成31年4月1日時点において、在学者4名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者4名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 教務部と保護者との情報共有・カウンセラーの活用																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 NSG無利子奨学金制度 NSG母子家庭・父子家庭奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績 実績数0																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://show-net.jp/soundcreator/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者を含みます。卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 サウンドクリエイター科レコーディングエンジニアコースでは、レコーディング事務所、音楽プロダクション等の音楽・エンタテインメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
 現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテインメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
 本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
 レコーディング事務所である「エヌドライブ」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
 また、学んだ知識をもとに実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに目標とする人材像を目指していくべく企業との連携を行い、カリキュラムに取り入れていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
 業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
 その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
 またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

- 【審議の流れ】
- ①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
 - ②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
 - ③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
 - ④カリキュラム改善

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
仁多見 浩	新潟市芸術文化振興財団	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌドライブ	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
下坂 旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
中川 経男	7th Avenue	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
田中 良	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月	
山本 雄太	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月	
佐藤 和音	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月	

- ※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (8月、2月)※前期終了時と後期終了時に実施

(開催日時(実績))
 第1回 令和元年8月27日 13:00～14:00
 第2回 令和2年2月4日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
レコーディングエンジニアとして専門職就職を目指していくにあたり、プロの現場をいかに体験するかが重要だとの話になった。「レコーディング実習Ⅱ」では、「レコーディング実習Ⅰ」で学んだ基礎を活かし、実際に行われたレコーディングのデータを題材に授業が行われるが、やはりアーティストとのコミュニケーションの中で育まれる判断力も重要だという話をし、「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」にて、学生アーティストのレコーディングの数をこなすことで現場で活かすことのできる実践力を身につけることができるであろうと着地し、よりそういった現場を生み出せるようにしていくこととし

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
- ② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
- ③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
- ④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
- ⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
- ⑥ 実習時間内における安全性の確保。

以上6点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

基本的な企業等との連携内容については、教員と企業担当者として事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者として実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。

その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。

実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

- ①「イベント制作実習」では、企業である「エヌドライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
- ②学生と企業担当者として実習内容の事前の打ち合わせを行う
- ③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
- ④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
- ⑤企業担当者による評価として、学生の実習内容、技術の習熟度を総合評価
- ⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エストライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エストライブ 株式会社柳都アーティストファーム
レコーディング実習Ⅰ	録音に関するいろはを学び、レコーディング技術を活用出来るようになる。主に、マイクの種類と役割、使用方法。レコーディングの基礎知識。これらを習得して行きながら、レコーディング実習を出来るようになることを目指す。	株式会社エストライブ
レコーディング実習Ⅱ	1年次に学んだレコーディングの技術をさらに応用し、さらに高いレベルでのレコーディング・エディット作業を学ぶ。 実際のエンジニアのレベルまで上げ、レコーディングスタジオへの就職を目指す。	株式会社エストライブ
Pro Tools実習Ⅱ	レコーディング実習の授業と連携し、作品制作をする。	株式会社エストライブ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。

就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「コンサート・ライブビジネス研修」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 平成31年4月19日(金) 対象: 全教員

内容: ライブビジネスの現在、CDからライブへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「実践行動学インストラクター研修」(連携企業等: 実践行動学研究所)

期間: 令和元年8月5日(月) 対象: 全教員

内容: 学生のモチベーションアップのための研修、動機づけ、指導力向上など、グループディスカッションしながら情報共有を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「これからの音楽エンタテインメントとは」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 令和2年11月6日(金) 対象: 全教員

内容: ライブビジネスの現在、CDからライブ、オンラインへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員フォローアップ研修」(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 令和2年10月22日(木) 対象: 入社3年目までの教員

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。また、学生指導や育成を目的としたインタアクションを学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努める。専修学校における学校評価ガイドラインを踏まえ、学校が行っている学生意識調査、保護者アンケート、その他の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会から毎年度末に評価を受ける「学校関係者評価」を実施し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえた学校の改善に取り組む。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
下坂 旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月31日	企業代表取締役
松本 和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月	企業役員
国友 慎之助	Dance Presentation UNITY	令和2年4月1日～令和4年3月	代表
山崎 亮	作曲家(フリーランス)	令和2年4月1日～令和4年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://show-net.jp/pdf/information/evaluation_2020.pdf

公表時期:年度末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
- ・具体性を持った情報提供に努めること

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://show-net.jp/information.php>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程サウンドクリエイター科レコーディングエンジニアコース)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	76		○			○			○	
2	○		デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	93		○			○		○		
3	○		デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55		○							
4	○		著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	20		○			○		○		
5	○		PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	45				○	○		○		
6	○		選択授業	音楽関係全般の選択授業	1・2通	76		○			○		○	○	
7	○		異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1後	22		○			○		○		
8	○		イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	244				○	○	○	○	○	○
9	○		イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	606				○	○	○	○	○	○
10	○		レコーディング実習Ⅰ	録音に関するいろはを学び、レコーディング技術を活用出来るようになる。主に、マイクの種類と役割、使用方法。レコーディングの基礎知識。これらを習得して行きながら、レコーディング実習を出来るようになることを目指す。	1通	76				○	○			○	○
11	○		レコーディング実習Ⅱ	1年次に学んだレコーディングの技術をさらに応用し、さらに高いレベルでのレコーディング・エディット作業を学ぶ。 実際のエンジニアのレベルまで上げ、レコーディングスタジオへの就職を目指す。	2通	76				○	○			○	○

12	○		Pro Tools 実習 I	レコーディングの授業と連携し、Pro Toolsの使用 方法をより深く学ぶ。 2年次に受験する「Pro Tools技術認定試験」Aラン ク取得に向けて、問題集に取り組む。	1 通	76					○	○				○	○
13	○		Pro Tools 実習 II	前期は「Pro Tools技術認定試験」Aランク取得に向 けて、問題集に取り組む。 後期はレコーディング実習の授業と連携し、作品制 作をする。	2 通	76					○	○				○	○
14	○		音響基礎	音響機材の設営、オペレート等の指導を行う。 ・PAミキサーの基本的な操作方法 ・PA機材のセッティング方法 音響機材への理解を深め、小規模での機材設営が可 能となる知識を身につける。	1 通	38					○	○				○	
15	○		ミキシング実習 I	ミキシングの基礎を学び楽曲の構造や演出の理解を 深める。 基本的なプラグインの使い方を学び、デモ音源・楽 曲のクオリティーを最大限に高める手法を習得す る。	1 通	38					○	○				○	
16	○		ミキシング実習 II	レコーディング実習と連携し、学生作品のミキシン グを行い、レベルを上げていく。	2 通	58					○	○				○	
17	○		スコアトレーニング I	レコーディングエンジニアとして必要な楽譜の読み 書きについて学ぶ。 楽譜を持ち込むアーティストの要望に応えられるエン 지니어になるために必要な知識を学ぶ	1 通	19			○			○				○	
18	○		スコアトレーニング II	レコーディングエンジニアとして必要な楽譜の読み 書きについて学ぶ。 楽譜を持ち込むアーティストの要望に応えられるエン 지니어になるために必要な知識を学ぶ	2 通	19			○			○				○	
19	○		サウンドレコー ディング技術概 論	JAPRS主催 サウンドレコーディング技術認定試験へ 向けての検定対策授業。	2 前	18			○			○				○	
20	○		CD制作実習	作曲・編曲コースの「CD制作実習」と連携し、レ コーディングが必要な楽曲の対応をし、完成まで担 当をする。 前期集大成「Summer Review」後期集大成「Grand Concert」での楽曲配布を目標とする。	1 ・ 2 通	76					○	○				○	
合計					20科目	1807単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	定められた単位時間を終了し、かつ全ての評価がD以上であること	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校		平成6年12月8日	田中 良		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地 NSG-スクエア 2F (電話) 025-225-1661																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	池田 祥護		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	サウンドクリエイター科 (作曲・編曲コース)			平成31年文部科学省 告示第三号	-																					
学科の目的	サウンドクリエイター科の学科目的・優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高い学生を音楽業界へ輩出する。																										
認定年月日	令和3年3月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1807時間	456時間	-	1351時間	-	-																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数		兼任教員数	総教員数																					
20人	0人	0人	1人		8人	9人																					
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(可)、E(不可)の6段階で評価する																						
長期休み	■夏季:8月2日～8月26日 ■冬季:12月24日～1月6日 ■学年末:3月14日～4月4日			卒業・進級条件	【進級・卒業条件】 ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 補講授業、課題提出			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員会、吹奏楽団への参加、母校部活サポーター ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 音楽プロダクション等音楽業界 他 ■就職指導内容 担任・就職相談室による個別面談、就職強化週の実施、校内音楽系企業説明会の実施、面接指導 ■卒業生数: 4 人 ■就職希望者数: 2 人 ■就職者数: 2 人 ■就職率: 100 % ■卒業生に占める就職者の割合: 50 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・アルバイト 1人 (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算処理技能認定試験</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス著作権検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	サウンドレコーディング技術認定試験	③	4人	3人	Excel表計算処理技能認定試験	③	4人	4人	ビジネス著作権検定	③	4人	4人	コミュニケーション検定	③	3人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
サウンドレコーディング技術認定試験	③	4人	3人																								
Excel表計算処理技能認定試験	③	4人	4人																								
ビジネス著作権検定	③	4人	4人																								
コミュニケーション検定	③	3人	3人																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成31年4月1日時点において、在学者4名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者4名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 教務部と保護者との情報共有・カウンセラーの活用																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 NSG無利子奨学金制度 NSG母子家庭・父子家庭奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績 実績数0																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://show-net.jp/soundcreator/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者を含みます。卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

サウンドクリエイター科作曲・編曲コースでは、作曲事務所や音楽プロダクション等の音楽・エンタテインメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテインメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。また同社でマネジメントしているアーティストの楽曲制作を行うなど、授業では業界の要望に応えられるような作曲・編曲の知識を習得する。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるような楽曲制作やコンペ参加などの実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】

- ①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
- ②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
- ③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
- ④カリキュラム改善

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
仁多見 浩	新潟市芸術文化振興財団	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エストライブ	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
下坂 旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
中川 経男	7th Avenue	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
田中 良	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
山本 雄太	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
佐藤 和音	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)※前期終了時と後期終了時に実施

(開催日時(実績))

第1回 令和元年8月27日 13:00～14:00

第2回 令和2年2月4日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
レコーディングエンジニアとして専門職就職を目指していくにあたり、プロの現場をいかに体験するかが重要だとの話になった。「レコーディング実習Ⅱ」では、「レコーディング実習Ⅰ」で学んだ基礎を活かし、実際に行われたレコーディングのデータを題材に授業が行われるが、やはりアーティストとのコミュニケーションの中で育まれる判断力も重要だという話をし、「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」にて、学生アーティストのレコーディングの数をこなすことで現場で活かすことのできる実践力を身につけることができるであろうと着地し、よりそういった現場を生み出せるようにしていくこととし

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
 - ② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
 - ③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
 - ④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
 - ⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
 - ⑥ 実習時間内における安全性の確保。
- 以上6点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

基本的な企業等との連携内容については、教員と企業担当者として事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者として実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。

その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。

実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

- ①「イベント制作実習」では、企業である「エストライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
- ②学生と企業担当者として実習内容の事前の打ち合わせを行う
- ③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
- ④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
- ⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
- ⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エストライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エストライブ 株式会社柳都アーティストファーム
レコーディング実習	録音に関するいろはを学び、レコーディング技術を活用出来るようになる。主に、マイクの種類と役割、使用方法。レコーディングの基礎知識。これらを習得して行きながら、レコーディング実習を出来るようになることを目指す。	株式会社エストライブ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。

就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「コンサート・ライブビジネス研修」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 平成31年4月19日(金) 対象: 全教員

内容: ライブビジネスの現在、CDからライブへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「実践行動学インストラクター研修」(連携企業等: 実践行動学研究所)

期間: 令和元年8月5日(月) 対象: 全教員

内容: 学生のモチベーションアップのための研修、動機づけ、指導力向上など、グループディスカッションしながら情報共有を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「これからの音楽エンタテインメントとは」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 令和2年11月6日(金) 対象: 全教員

内容: ライブビジネスの現在、CDからライブ、オンラインへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員フォローアップ研修」(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 令和2年10月22日(木) 対象: 入社3年目までの教員

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。また、学生指導や育成を目的としたインタアクションを学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努める。専修学校における学校評価ガイドラインを踏まえ、学校が行っている学生意識調査、保護者アンケート、その他の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会から毎年度末に評価を受ける「学校関係者評価」を実施し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえた学校の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
下坂 旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月31日	企業代表取締役
松本 和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和2年4月1日～令和4年3月	企業役員
国友 慎之助	Dance Presentation UNITY	令和2年4月1日～令和4年3月	代表
山崎 亮	作曲家(フリーランス)	令和2年4月1日～令和4年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://show-net.jp/pdf/information/evaluation_2020.pdf

公表時期:年度末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
- ・具体性を持った情報提供に努めること

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://show-net.jp/information.php>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程サウンドクリエイター科作曲・編曲コース)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○		SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	76		○			○			○		
2	○		デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	93		○			○		○			
3	○		デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55		○								
4	○		著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	20		○			○		○			
5	○		PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	45			○		○		○			
6	○		選択授業	音楽関係全般の選択授業	1・2通	76		○			○		○	○		
7	○		異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1後	22		○			○		○			
8	○		イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	244				○	○	○	○	○	○	
9	○		イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	606				○	○	○	○	○	○	
10	○		MIDI基礎	MIDIの知識に加え、実際の音楽制作現場で必要とされるコンピュータやDAWの知識と楽典やデジタルオーディオに関する知識学び、今後の音楽制作のためのMIDIの知識習得と共にMIDI検定取得を目指す。	1通	38		○			○			○		
11	○		楽曲アナライズ	編曲のクオリティー向上のため、様々な楽曲を分析しアレンジ方法を真似することで、そのスキルを自分のものにしていく。あらゆる楽器の音域・奏法などを実際耳で感じながらパソコンで再現できるように学んでいく。	1通	38				○	○				○	

12	○		レコーディング実習	録音に関するいろはを学び、作曲編曲時にレコーディング技術を活用出来るようになる。主に、マイクの種類と役割、使用方法。レコーディングの基礎知識。	1通	38					○	○					○	○				
13	○		作曲音楽理論Ⅰ	作曲・編曲に必要なハーモニー・スケールの基礎を習得し、メロディーやアレンジのアプローチを学ぶ。	1通	38			○			○						○				
14		○	作曲音楽理論Ⅱ	1年次に習得したポピュラー音楽理論を踏まえ、より深い理解への到達と作新たな音楽理論の知識を習得してもらう。楽譜による譜例紹介及びポピュラー楽曲の分析などを行い音楽理論への理解を深めていく。	2通	38			○			○							○			
15	○		作曲編曲実習Ⅰ	DTMでの音楽制作に取り組んでもらうため、DAWにおける音源制作の一通りの作業を理解し習得してもらう。	1通	38						○	○						○			
16		○	作曲編曲実習Ⅱ	作編曲のクオリティー向上のため、メロディーメイキング・アレンジ奏法を学習し、実習していく。それぞれ独自のコード進行を作りアレンジすることで編曲のスキルを上げていく。	2通	38						○	○							○		
17	○		コード楽器実技Ⅰ	シンガーソングライターに必要なピアノ・ギターの演奏技術を学び、自身の楽曲制作に生かせるようにする。	1通	38						○	○						○			
18		○	コード楽器実技Ⅱ	シンガーソングライターに必要なピアノ・ギターの演奏技術を学び、自身の楽曲制作に生かせるようにする。	2通	38			○				○						○			
19	○		作曲楽器学	主に作曲で使用する「生楽器」について、実際に触り、演奏し、経験させる。打ち込みで再現できるもの、できないものの違いを理解した上で作曲してもらう	1通	19						○	○							○		
20		○	ヴォーカルレコーディングA	実際のレコーディングを通して、コンデンサーマイクでのヴォーカリング、ヘッドフォン（イヤフォン）を使ってのモニタリングやキューボックスの操作に慣れ、自分にとって歌いやすいセットアップ法を学ぶ	2通	38						○	○						○			
21		○	ヴォーカルレコーディングB	ヴォーカルのレコーディング、ピッチ修正、音量調整、プレス調整、ミキシングなどヴォーカルトラックを音源に馴染ませるため必要なあらゆる技術を身につけていく。	2通	38						○	○						○			
22	○		CD制作実習	楽曲制作からCD制作～配布まで学生自身が行うことで、1枚のCDが聞き手に届くまでの流れを体感する。	1・2通	76						○	○							○		
23		○	シンセサイザー概論	シンセサイザーの基礎知識から、シンセサイザーソフトを使用した音作りを学んでもらう。初回は講義形式で音やシンセサイザーの基礎知識と仕組みを紹介する。	2通	38			○				○								○	
24	○		ミキシング実習	ミキシングの基礎を学び楽曲の構造や演出の理解を深める。基本的なプラグインの使い方を学び、デモ音源・楽曲のクオリティーを最大限に高める手法を習得する。	2通	38							○	○							○	
25		○	EDIT実習	ヴォーカル、楽器の録音後の編集技術を、直し・ミキシングなどをまとめて学ぶ。自身の楽曲をレコーディングし、配布・販売できるクオリティに自身でできるようになることを目指す。	2通	38							○	○							○	

26	○	コード理論	作曲・編曲に必要な最低限のコード理論を学び、楽曲制作に生かす。主に楽典から紐解いてコード構成の仕組みや、コード進行法をインプットする。	2通	38					○	○			○
27	○	アレンジメント	編曲に必要な楽器のアレンジ、トラックごとのMIDIでの打ち込み方を学ぶ。基本的なアプローチをレクチャーし、個性に合わせた応用方法を提示することにより質の高いオリジナル楽曲の制作へ発展させる。	2通	38					○	○			○
28	○	作品制作	DAW組はサブスク配信、コンペ提出を目標に、SSW組は自身の持ち曲を増やすことを目指す	2通	19					○	○			○
29	○	簡易PA実習	この授業を通じて学校内外での簡易的なイベントでPAが出来るようになることを目標とする。	2通	38					○	○			○
合計				29科目		1807単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
定められた単位時間を終了し、かつ全ての評価がD以上であること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。